

## 汚泥リサイクル施設の視察など

日本リ・ソイル 工業協同組合 北海道で研修会



北海道内外から多くの  
組合員が参加した

ユニ・ソイルの製造販売などを通じて汚泥のリサイクルなどを推進する日本リ・ソイル工業協同組合(仙台市、荒金憲一理事長)は7月5日、6日に北海道の石狩市で研修・視察会を開催した。

視察を行ったのはレンテック(北海道苫小牧市、長山朝丸社長)石狩工場。同施設は昨年度から大型造粒設備を増設し、大量の処理困難汚泥のリサイクルに取り組んでいる。増設した工場内には大型特殊ふるい分別機を取り付け、前処理を行いながら造粒固化処理を行っている。参加した

組合員は処理・リサイクルの流れを見学し、その後は札幌市内のホテルで研修会を行った。

日本リ・ソイル工業協同組合の荒金理事、レンテックの長山社長があいさつを行った後、レンテックの赤崎専務より同社の焼却灰再利用処理など新規事業の概要と進捗状況の説明などが行われた。

視察・研修会には、北海道地区の組合員企業である美幌貨物自動車、ネオリサイクル、道南汚泥リサイクルセンター、レンテックの他、北海道外の組合員も多数参加し、盛況のうちに幕を閉じた。終了後サッポロビール園で交流・懇親会を行った。